

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 4 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520213

研究課題名（和文）アメリカ・ゴシック研究と現代批評

研究課題名（英文）American Gothic and Contemporary Literary Theory

研究代表者

加藤雄二（KATO YUJI）

東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 准教授

研究者番号：60224549

研究成果の概要（和文）：ゴシック的要素を扱った作家たちとその作品について、国際的な視野をもって学会発表、研究会活動、論文執筆活動を行った。2008年度には国際メルヴィル学会、フォークナー学会で研究発表を行い、外国人研究者とセミナーを開催した。2009年には日米のエドガー・アラン・ポー学会で研究発表を行い、論文を執筆した。2010年にはホーソーン学会、ディキンソン学会でゴシックを再検討した。Conrad と Melville に関する論集に寄稿した。2011年にはメルヴィル学会、アメリカ MLA 全国大会に参加し、海外の研究者と成果の発表を行った。

研究成果の概要（英文）：I discussed and wrote about American Gothic writings and their authors from international perspectives. I spoke and interacted with international scholars at international Herman Melville conference and William Faulkner conference in 2008; I sponsored seminars with an American specialist on Nathaniel Hawthorne; I made presentations at Edgar A. Poe conferences in both Japan and the United States in 2009 and re-examined his significance as the origin of American Gothic; I participated in Nathaniel Hawthorne conference and Emily Dickinson conference in 2010 and re-examined 19th century American gothic genre; I cooperated with The Melville Society and published an essay in a collection of essays on Joseph Conrad and Herman Melville in the same year; I spoke at Herman Melville conference and MLA convention in 2011 and discussed Melville's significance in contemporary, globalized contexts with foreign scholars,

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：

キーワード：アメリカ文学、批評理論、比較文学、ゴシック

1. 研究開始当初の背景

代表者は、日本におけるアメリカ文学・文化研究が、日本文学に従来のロマンティズムとリアリズムの枠組みに限定されて行われがちであることに注目し、その問題点を意

識化する作業に研究開始以前から着手していた。同様の状況が新たなアメリカ文学・文化研究の推進に困難をきたしてきたと感じていた。アメリカ本国では、1970年代以降の文学研究の展開のなかで、現在の様々な

批評的方法論の基盤となる理論の再検討が行われてきたことにより、アメリカ19世紀文学の理解もロマンティズムやリアリズムとは異なった基盤にもとづいて行われてきている。アメリカ本国においては、文学史的な視野も同様の認識にもとづいて改変されてきた。しかしながら、日本でのアメリカ文学・文化研究においては、根源的な理論の理解と具体的研究へのそうした理解の適用が不十分な形でしか行われてこなかった。そのため、研究活動および、とくに教育活動における矛盾が蓄積して、大学でのアメリカ文学・文化研究を阻害するにいたっているとさえ感じられた。そうしたジレンマを解消し、アメリカ文学・文化研究を国内のコンテクストに限定して行うだけでなく、真に国際化する方法論を通関し、国際的なコンテクストにおける研究活動を自由に行うことができる実践的な場を求めていた。その基盤をすえるという意味で、アメリカ文学・文化研究の主流であり基本でもある19世紀文学を、現代的理論の視野のもとで、日米両方で議論する必要があると感じていた。また、それに呼応するかのようにして、日本の大学機構一般が国際化の必要を唱え始めてもいた。国内のコンテクストから国際的なコンテクストへと文学・文化研究の可能性と方法を開く機運が熟していたといえるだろう。

2. 研究の目的

アメリカ合衆国その他の国際的な環境において行われているアメリカ文学・文化研究のコンテクストと理論を歴史的にさかのぼって、いわゆる脱構築の理論を基盤として論究しなおし、ジェンダー論、セクシュアリティ論、歴史主義、エスニック・スタディズなどを表層的に導入した議論の問題点を再検討し、解消しようとする。1990年代以降、これらのトピカルな議論がおろそかにしてきた可能性がある、基礎的な理論的指標を再確認する。そのうえで、19世紀アメリカ文学のテキストを新たに読み直し、国内外の学会その他の場において代表者によるアメリカ文学・文化についての新たな理解を試す。その成果を発表、東京外国語大学を拠点としつつ、国内外の研究の発展に寄与することが目的である。また、日本における今後のアメリカ文学・文化研究を、国内的なものから国際的なコンテクストへと解放してゆく方法とその伝達の基礎となるべき研究活動の方法論を模索し、他の日本人研究者の研究活動に資するよう努力し、グローバル化する日本の大学環境における研究者の研究活動と学生諸君の留学などを通しての学びをより容易にし、その相互的な国際的交流の意義を明確化すること。こうした作業を行うことによって、高度なレベルの研究活動を行いうる諸

大学や研究者、学生などの国際化を促進すること。

3. 研究の方法

国外においては、国際学会に参加して批評理論的視野を前提とした研究発表と論文発表を行い、主に国外の研究者たちとの議論と連携を通して新たな研究の方法論と視野を開拓する。国内では、海外の研究者たちと連携しつつ、セミナーを開催するなどして啓蒙活動を行い、国内の研究者たちに協力を仰ぎつつ、海外での活動に積極的に参加するように促す。学問的な研究方法としては、現代のアメリカ文学・文化研究の基礎となっていながら、しばしば新しい方法論の前提となっていることが忘れられがちである、いわゆる脱構築を本研究における研究方法の基本として明確に意識しつつ、従来のロマンティックな言説によって行われてきた19世紀アメリカ文学研究の方法論と成果を再検討し、現代批評理論と現代文学の方法論を意識化しつつ、19世紀アメリカ文学・文化を代表する作家たちの作品をあらたに読み直すことが課題となっている。より具体的には、現代におけるジェンダー論、セクシュアリティ研究、それらと連携した精神分析的批評、またエスニック・スタディズなどを、それらの基盤となった脱構築的観点から再検討し、それらにもとづいて行われた議論や従来の議論を再検討することとなった。ジャック・デリダの脱構築に回帰し、デリダを参照しつつ現代におけるアメリカ文学・文化研究を先導してもいるシャロン・キャメロン、サミュエル・オターの著作など、研究代表者と同じ観点からアメリカ文学・文化研究を実践してきた研究者たちの業績を参照しつつ、19世紀アメリカ文学・文化の再検討を行う。さらに、その成果を現代におけるアメリカ文学・文化の批評一般と照らし合わせ、その有効性をあらためて問い直す。

4. 研究成果

各年度とも2つあるいはそれ以上の国際学会などに参加し、研究発表を行うことができた。2008年度には海外の研究者を御招聘してセミナーを、東京、京都、広島 の3都市において開催することができた。海外で発表された研究論文を含め、毎年1から2点の論文執筆を行うことができた(未発表のものも含む)。また、セミナーその他での活動を通して、研究代表者以外の日本の研究者たちに海外で活動することの重要性を知らせ、日本人の海外諸学会での活動を支援し、ある程度の成果を挙げた(今年度イタリア、フィレンツェで開催された、19世紀アメリカ作家についての国際学会では、多くの日本人研究者たちが研究発表を行った。その多くが研究代

表者の知り合いであった。) 最終年度に予定していた総括としてのセミナー開催は、東日本大震災の影響によりアメリカ人研究者の来日が不可能になったため、日本ナサニエル・ホーソン協会との連携活動だけに限定されてしまった。しかし驚くべきことに、研究代表者の活動やセミナー開催の計画などもその理由のひとつとなって、アメリカ合衆国のメルヴィル学会が、2015年に東京で国際学会を開催することが決まり、やはり合衆国のナサニエル・ホーソン協会とエドガー・アラン・ポー協会が2018年に日本で国際学会を開催することが検討され始めた。また、日本ナサニエル・ホーソン協会が30周年記念事業として出版する、19世紀アメリカ文学・文化についての論集の企画が立ち上がり、その1章を分担執筆することも決定している。このように、国内外の研究における交流が活発化したことは、大きな成果であると考えられる。また、研究代表者はすでに1本の論文を海外で出版された論集の1章として出版しているだけでなく、他にも、国際学会での研究発表にもとづいた2本の研究論文を、出版予定・時期が未定ではあるが、すでに執筆、提出しており、今後具体的な研究における国際交流もより充実することが予想される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ①加藤雄二、「「アメリカン・ルネッサンス」のレトリック：エドガー・アラン・ポーのポエティックス／ポリティクスとの対比において」(東京外国語大学『東京外国語大学論集』64号、頁番号未定、2012年11月刊行予定) 査読無
- ②加藤雄二、「エミリー・ディキンソンと不在のゴシック」(東京外国語大学『総合文化研究』15号、6-16頁、2011年3月) 査読無
- ③加藤雄二、「エドガー・アラン・ポーとウラジーミル・ナボコフにおける回想と記憶のポリティクス：「アナベル・リー」、「初恋」、「ロリータ」」(東京外国語大学『東京外国語大学論集』81号、97-111頁、2010年12月) 査読無
- ④加藤雄二、「アメリカ南部社会におけるリ

アリズムと女性像：ケイト・ショパンとウィリアム・フォークナーの諸作品における沈黙と語り」(東京外国語大学論集 80号、35-48頁、2010年11月) 査読無

⑤加藤雄二、「エドガー・アラン・ポーの2000年とその可能性」(東京外国語大学『総合文化研究』13号、61-77頁、2010年3月) 査読無

⑥加藤雄二、「あらかじめ失われた失われたものの痕跡」(東京外国語大学『総合文化研究』12号、74-94頁、2009年3月)

[学会発表] (計9件) 査読無

- ① Yuji KATO, "Herman Melville, Japanese Literature and Contemporary Pedagogy of the Borderless," at MLA convention in Seattle USA, January 2012.
- ② Yuji KATO, "Edgar A. Poe and F. O. Matthiessen's *American Renaissance*," at Nathaniel Hawthorne Society of Japan's 30th Anniversary Conference in Kyushu Japan, May 2011.
- ③ Yuji KATO, "Poetics on the Margin: Emily Dickinson's Posthumous Poetics and the English Romantics," at Emily Dickinson International Society's Conference in Oxford, England, August 2010.
- ④ Yuji KATO, "Would that be all excellent books were foundlings": Herman Melville and Nathaniel Hawthorne in 'Hawthorne and His Mosses,' Moby-Dick, and Other Texts," at Nathaniel Hawthorne Society's Summer Meeting in Concord, Massachusetts, June 2010.
- ⑤ Yuji KATO, "Would that be all excellent books were foundlings": Herman Melville and Nathaniel Hawthorne in 'Hawthorne and His Mosses,' Moby-Dick, and Other Texts," at Nathaniel Hawthorne Society's Summer Meeting in Concord, Massachusetts, June 2010.
- ⑥ Yuji KATO, "When We Were Orphans: Edgar A. Poe, Vladimir Nabokov, and New Directions in Contemporary Culture," at Edgar A. Poe's Bicentennial Conference in Philadelphia, October 2009.
- ⑦ Yuji KATO, "(De)Historicizing Poe: Edgar A. Poe's Texts and the Figure of the Writer in the Modern and Postmodern Eras," at Edgar A. Poe's Bicentennial Conference by Poe Society of Japan, September 2009.
- ⑧ Yuji KATO, "The Galapagos, the Mediterranean, and the Power of

Enchantment: Herman Melville's Wandering Poetics in "Jerusalem," "The Encantadas," and *Billy Budd, Sailor*, at the 7th International Herman Melville Conference in Jerusalem, June 2009.

⑨ Yuji KATO, "History and Culture in the Age of Paranoia: Don Delillo, William Faulkner, and the Postmodern," at TUFSS Seminar in American Literature with Professor Sam Coale, "Connecting the 19th Century with the Contemporary," at Tokyo University of Foreign Studies, December 13, 2008; oral presentation in English

⑩ Yuji KATO, "Nathaniel Hawthorne's Repetitive Double Outsets: *Twice-told Tales* and the Politics of Psychoanalysis," at Nathaniel Hawthorne Society's Summer Meeting, "Starting Over," at Bowdoin College, Brunswick, Maine, July 2008; oral presentation in English

[図書] (計 1 件)

①Yuji KATO, "In the Dark Narcissism of Se(a)cret Sh(e)aring Sh(e)aring
Se(a)cret: The Eruption of the Other in Joseph Conrad and Herman Melville,
" Pawel Jedlzejko and Milton R. Reigelman, eds., *Hearts of Darkness: Melville, Conrad, and Narratives of Oppression* (M Studio, 2010), 123-136.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 雄二 (KATO YUJI)

東京外国語大学 大学院総合国際学
研究院 准教授

研究者番号 : 20520213